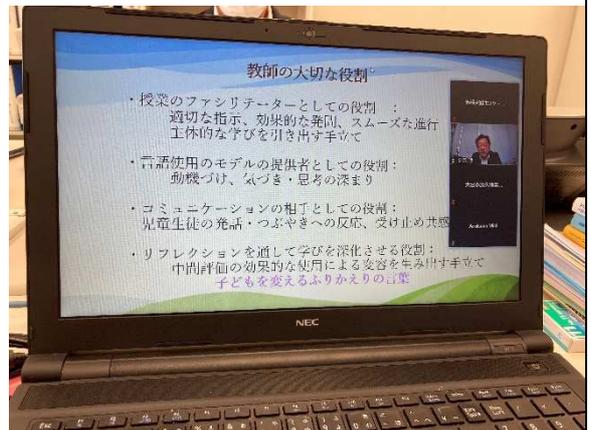
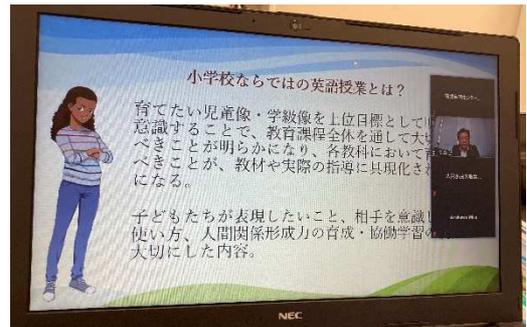


小学校外国語活動研修会報告書

研修名	「小学校外国語活動研修会」名護市教育委員会と共催
日時	2021年2月22日(月) 15:00～17:45
研修の目的	小学校の外国語活動に関わる教職員に効果的な語学指導が出来るよう必要な知識・指導技術を習得させ、授業改善に資する。
テーマ	小学校外国語活動（評価）のポイント教科書の活用について
講師名	金森 強（文教大学教育学部（英語専修）教授）
会場・場所	Zoomによるオンライン研修
研修内容	<p>「小学校外国語科授業（評価）のポイントと教科書の活用について」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これからどのような英語教育が求められるか？ 2. 「言葉の教育」としての授業づくり <ol style="list-style-type: none"> ①言語活動を充実させるためのポイント ②4技能をバランス良く ③聞く力の育成を ④振り返り活動を効果的に 3. 評価について <ol style="list-style-type: none"> ①指導と評価の一体化の実現に向けて ②語彙力 ③テストのための知識ではなく 4. 小学校ならではの英語授業とは <ol style="list-style-type: none"> ①英語を用いて表現する機会をつくる。②楽しむことが出来る授業の働きかけが大事
成果／活用策	<p>○これまで評価について、具体的な方法がはっきり分からなかったのですが、今回の講演会では a/b/c の評価の根拠が示されていたので、以前よりはっきりしてきた気がします。</p> <p>○小中との比較による評価のちがいを説明したくださったこと、小学校において、音声の評価はしなくてよいこと。</p> <p>○ルーブリックの作成について、校内で検討しようと思います。評価の (a, b, c)のうち、教師の英語力がどうなのか深刻な問題。JTEは全校派遣されないのですか？人材の必要性が分かりました。</p> <p>○「子ども達には学んだことを伝えたい。伝えることで認められ、さらに学びたいと思う。」こういう気持ちを大切にしたい授業を行うことが大事だということ学びました。子ども達の学ぶ意欲や頑張りを引き出していける授業づくりを工夫し、実践していくことが大事だと知りました。子ども達と共に教師もしっかり学び、子ども達を育てていけるよう、日々、取り組んでいこうと思います。外国語活動に取り組む際、難しさや困り感がありますが、ALT や JTE の力も借りて授業づくりや授業改善に取り組んでいこうと考えています。</p> <p>○なぜ音声から入ることが大切かよくわかった。音声言語と文字言語。単元の早い段階に「記録に残す評価」は好ましくない。文字指導を急がない。音声言語として英語を学ぶ。</p> <p>○①覚えるだけ×→比較する・用いる。②教科書から社会へ広げる。③英会話・発話だけの授業では×でどのような活動を通して表現に親しましたが大切。④日本語で自分が表現したいことを考えるのではなく、今まで親しんだ表現から自分の考えを表してみる。</p> <p>○①実際のコミュニケーションにおいて適切な英語が用いられているだろうか、②生活の場面で使われる表現、③評価をするタイミング、④Goal を意識した中間評価、以上のこと</p>



感想／要望	<p>について見直す機会となり良かったです。</p> <p>○3観点の評価について、例を示しながら実際に評価してみた場面は概ね文科省の示す評価にはなっていたか、違う部分について説明されており、評価について生かせると思った。パフォーマンステストの例をみて実践する講演を再びお願いしたい。</p> <p>○具体的に a, b, c 評価が提示されていたのはすごく分かりやすかったです。金森先生もおっしゃっていたように a 評価のレベルがすごく高いなと感じました。学級の児童に合わせて評価の基準も決めていきたいと思います。</p> <p>○小学校英語を音声中心にやっていくことで、文法構造的な理解は気にしないで良い、中学校に入って小学校での音声の学びが文構造を理解しやすくする・・・という言葉に納得しました。これからの指導に活かさせそうです。</p> <p>○小学校は中学校の前倒し教育ではないこと。ルーブリックをしっかりと作成いくこと。</p> <p>○a, b, c 評価ですが、我が校の現状は b, c がほとんどですが、評価として全国的に先生方は b や c を指導要録に記載しているのでしょうか。やはり、a まで「させる」方が良いのでしょうか？</p> <p>○外国語活動や外国語の授業に不安や困り感などが少しありましたが、今回、金森先生のお話を聴いて、これからどう進めていけばいいのか分かってきたように思えます。どうしたらいいんだろうと不安に思うだけではなく、自ら色々尋ねたり調べたりしていこうと思います。</p> <p>○外国語に授業において、評価の仕方も分かりやすく説明してくださり、各学校で採点の基準を考えて適切に評価していくことが大事だと知り、考えていきたいです。</p> <p>○「脳や心が動く Active」、「行動が Active」がある「考える」「心が動く」からこそ発信したくなるという言葉が印象的でした。英語は言葉の教育であり、言葉を使って何ができるようになりたいか、人と関わり合い、自己表現するための手段を学んでいるということを見習いたい。</p> <p>○①小学校での学びは中学校の前倒しではない、②十分な input のあとに話す・読む・書くがくる、③相手を意識したことば/表現、小中の連携や学年間のつむぎを大切にしていきたいです。</p> <p>○「(言葉の教育)としての(授業づくり)」、「考えながら、予想しながら、反論しながら、まとめながら、共感しながら、批判しながら聴く」英語(外国語)の学習のみならず、すべての学習で意識して取り組む必要があるなと思いました。特に外国語では自分の伝えたいことを相手に伝える場面が多いので、母語ですみずできるようにすることの必要性も感じました。他教科とつなげるようにしたいです。</p> <p>○すばらしい取り組みです。いつも有り難うございます。</p> <p>○市販のテストは利用すべきなのですか？ 評価で利用する場合、何割程度の比重で？</p> <p>○移動時間がないのはオンラインの魅力、もっと沢山の先生方が参加できるようにもう少し遅めで短い時間が良いと思います。</p> <p>○金森先生の研修は以前にも受けさせてもらいましたが、今回も新しい学ばせてもらうことが多かったです。ありがとうございました。</p>
-------	---



アンケートの結果

目標参加者数	59 人	参加者	59 人	参加率 100% 参加率＝目標参加数÷参加数
アンケート回収数	48 件	回収率	81%	回収率＝回収数÷参加者数 (%)

アンケート項目	評価 4		評価 3	
1. 研修の時間について	適切であった	39 人 (90%)	まあまあ適切であった	4 人 (9.3%)
2. 興味を引く研修内容か	非常に良かった	39 人 (90%)	良かった	4 人 (9.3%)
3. 今後の教育活動に活かそうか	非常に活かそう	35 人 (81.4%)	まあまあ活かそう	8 人 (18.6%)

